



第96期中間事業報告書

(平成11年4月1日から平成11年9月30日まで)

Units of
dollars
Millions of yen (Note 1)
Year 1998-1999
For the Year
Total income 2,071,194 1,718,739
Total expenses 1,609,126 1,561,431
Income before income taxes 462,068 157,308
Net income 4,537 4,113

At Year End
Deposits 729,517 5,764,282
Loans 518,300 5,156,427
Securities 10,130,831
Customer deposits 4,431,522
Equity 832,800

Year-End Dividends
Dividends 1,433,900
Net income (Note 2) 4,537
Dividends payable 280,056
Dividends applicable to the year 200,000

Net income per share is computed based on the weighted average number of shares of common stock outstanding during the years stated in the text and for the fiscal year which runs from April 1 through March 31 of the following year.
Dividends applicable to the year 200,000

1999

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

ここに、第96期中間期(平成11年4月1日から平成11年9月30日まで)の営業の概況と決算の結果をご報告いたします。

営業の概況

当中間期におけるわが国経済は、政府の経済諸施策の効果も出始め、景気の下げ止まり感から、やや明るさが見えるようになって来ました。しかしながら、今夏から為替レートが円高に振れ、輸出企業にとっては引き続き楽観を許さない状況となっております。

当社の関連する市場では、国内の需要低迷と価格低下が引き続くなかで、アジア経済が回復の兆しを見せ、好調が続く米国経済が支えとなる一方、デジタル化が幅広い事業領域に及び、構造転換が急務となってきております。

このような情勢のもと、当社は

1)社内カンパニー制の導入

2)本社機構の改革

3)デジタルフォト事業推進体制の改革

を内容とした経営機構改革を6月に実施しました。これは、社内カンパニー制の導入により、カンパニー権限の拡大と責任の明確化を行い、開発・生産・販売を一体化した事業運営の実現とともに、さらなるスピード化と各事業分野における競争力の強化を目的としたものです。このことによりグループ連結業績の向上、特に連結キャッシュフロー改善を図ってまいります。

社内カンパニーとして、「コンシューマーイメージングカンパニー」、「メディカル&グラフィックカンパニー」、「オフィスドキュメントカンパニー」、「オプトテクノロジーカンパニー」の4カンパニーを新設いたしました。

また、事業育成と成長を図るために、「EM&ID事業グループ」、「カメラ&デジタルフォト事業グループ」も合わせて新設しております。

この結果、当中間期の売上高は、円高の影響もあり1,668億円と前年同期に比べ218億円(11.6%)の減収となりました。売上高の内訳は、国内755億

目 次

株主の皆様へ.....	1 ~ 6
営業の概況	
中期計画の遂行状況	
今後の見通し	
連結決算.....	7 ~ 8
KONICAトピックス.....	9 ~ 10
新製品トピックス.....	11 ~ 12
役員、株式の状況.....	13
会社概況・株主メモ、 ご優待のご案内.....	14

円(前年同期比8.2%減)輸出912億円(前年同期比14.2%減)となっております。

営業利益はコストダウン等中期計画を推進した結果、75億円(前年同期比58.1%増)と増益となりました。経常利益につきましては、円高による為替決済差益の減少などで54億円(前年同期比26.2%減)となりましたが、中間利益は有価証券評価損の減少で33億円(前年同期比30.9%増)と増益となっております。

今後は、円高による輸出採算の悪化やグローバルな競争激化が予想されますが、現在進行中の中期計画を実行することにより、21世紀の国際優良企業をめざして経営革新を強力に推進してまいります。

感光材料・感材機器部門

当部門の売上高は、965億円で前年同期に比べ6.8%の減少となりました。

コンシューマーイメージングカンパニー

コンシューマー製品(一般向けの感光材料製品)の国内部門においては、国内景気低迷の影響で特にレンズ付フィルムが振るわず、加えてカラーフィルム、カラー印画紙とも前年を下回る結果となりました。このようななかで、レンズ付フィルムの新製品として、フラッシュ撮影がきれいにできる「撮りっきりコニカMini Goody(ミニグッディー)」を7月に発売いたしました。今では、多くのコンビニエンスストアの定番商品となり、好評をいただいております。カラーフィルムでは、「コニカ

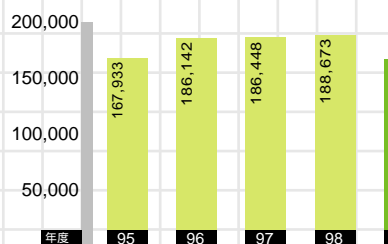
カラーセンチュリア」シリーズのAPS* 200 / 400を9月に発売いたしました。また当社が他社にさきがけて発売したフルデジタル自動現像処理システム「コニカデジタルミニラボQD-21システム」に、LIMITED(リミテッド) PLUS(プラス)の2タイプをラインアップしました。

*APS:新写真システム

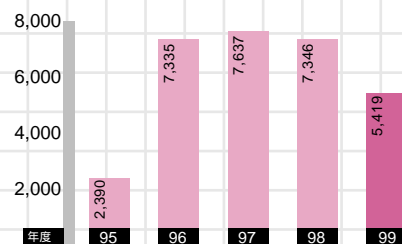
一方海外部門は、特に中国、韓国、東南アジアが好調に推移し、全体でカラーフィルム、レンズ付フィルム、カラー印画紙いずれも前年同期を上回りました。また、米国で新しく発足したコニカフォトイメージングInc.は4月1日よりスタートし、売上・利益とも計画どおりに推移しております。

今後は内外での販売体制再構築を

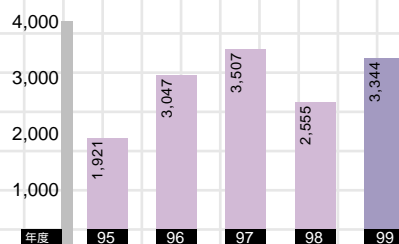
売上高 (単位:百万円)



経常利益 (単位:百万円)



中間利益 (単位:百万円)



売上高および経常利益は、中間期のものです。

株 主 の 皆 様 へ

契機に、連結ベースの収益力向上と競争力強化を図り、デジタル化への対応も合わせて推進してまいります。

メディカル&グラフィックカンパニー

3
メディカルイメージング製品(医療用感光材料製品)では、フィルム需要横ばいのなか、数量ベースでは前年同期を上回る順調な売上を示しましたが、販社向けに価格改定を実施したため、金額ベースでは減少しました。当社の戦略製品であるデジタルイメージングシステム「コニカREGIUS(レジウス)」シリーズは、カセットタイプの本格展開が始まり、市場からの引き合いも強く、大幅な売上増となっております。また、ドライレーザーイメージャ(乾式でレーザー光を使用する画像記録装置)が引き続き好評を博し、次期商品の発

売が期待されています。今後も、これらの魅力ある製品をさらに充実させることにより、デジタル化するメディカル画像市場ニーズに対応して行きたいと考えております。

グラフィックイメージング製品(印刷用感光材料製品)の国内部門では、景気低迷の影響を受けて、需要が依然低調に推移しております。売上高は前期末にPS版事業を営業移管したため減少しましたが、ブルーフ(試し刷り)用印画紙は順調に売上を伸ばしました。また海外部門においては、アジア、米国を中心に主力の印刷用フィルムが大幅に増収となりました。

当社のデジタルブルーフシステム「コニカデジタルコンセンサス」は、引き続き市場で好評を博しており、今後デジタル化が進むなかで、イメージセ

ッター(画像出力用)フィルムおよびデジタルブルーフ製品をさらに充実させてまいります所存です。

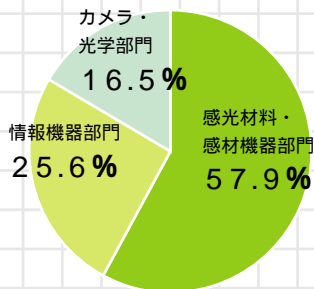
EM&ID事業グループ

電子材料を主軸とする当事業グループでは、LCD(液晶ディスプレイ)の基幹材料である「液晶偏光板用TACフィルム*」の事業に本格参入することとし、中長期的な供給能力確保のため、神戸事業場内に新工場を建設しております。当下期中に完成し稼働の運びになっており、市場のご要望に速やかにお応えしてまいります。

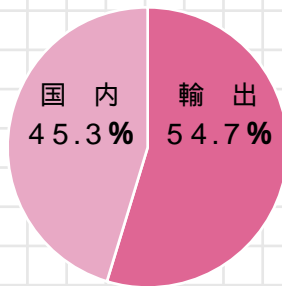
*TACフィルム:トリアセチルセルロースフィルム

感光材料の新しい分野であるインクジェットプリンタ用光沢紙「コニカインクジェットペーパーフォトライクQP」は、その高画質、速乾性、耐水性で市場から高い評価を受け、飛躍的に販売数量を伸ばしております。9月より大判ロール紙も発売し、高級光沢紙の市場はプリンタが高解像出力指向と言うこともあり、今後とも大きな伸びが期待されております。

事業構成比



国内外売上高比率



情報機器部門

当部門の売上高は、426億円で前年同期に比べ30.5%の減少となりました。

オフィスドキュメントカンパニー

複写機は、デジタル機のラインアップ拡充を図るべく、高速機、中速機、普及機の各分野に新製品投入を推進しております。また、中期計画実行にあたり、連結キャッシュフロー創出の施策として、連結在庫の圧縮を合わせて進めてまいりました。その結果、当中間期では販社在庫の調整を実施し、当カンパニーの売上高は減少しておりますが、連結売上高では実質的に前年同期を上回っております。新製品といたしましては、「Konica7060」に機能強化と市場ニーズの織り込みを図った「Konica7065（国内向けはそれぞれ「Sitios7060」、「Sitios7065）」を9月に発売いたしました。特に、中高速デジタル機の分野で、当社製品が内外ともに高い評価を受けております。

今後は、デジタル機の品揃え強化を進めるとともに、デジタル化やネットワーク化の進展にともない、ハード

中心のビジネスからサービスやテクニカルサポートを重視したネットワークソリューションやドキュメントソリューションなど、ソフト面での対応にもますます注力したいと考えております。

カメラ・光学部門

当部門の売上高は、275億円で前年同期に比べ16.7%の増加となりました。

オプトテクノロジーカンパニー

光ディスク用非球面プラスチックレンズなどの光学素子、レンズユニットなどの需要が順調に伸び、増収となりました。3.5型光磁気ディスクドライブも含め、パソコン、マルチメディア関連の市場に光学技術を提供し、引き続き高い評価をいただいております。今後も、不断の技術開発により画期的な製品供給を推進してまいります。

カメラ&デジタルフォト事業グループ

135タイプコンパクトカメラは景気低迷とデジタルカメラの影響により、業界全体が前年より出荷減となっております。当社では、APS対応機と

して自分撮りモードを搭載した「コニカRevioα(レビオ) Z2」と自分撮りモードに加え、エコフラッシュなどの機能を搭載した3倍ズーム機「コニカRevio Z3」を相次いで発売いたしました。また、デジタルスチルカメラは全体需要が大幅に伸びるなか、「コニカデジタルスチルカメラQ-M200」を6月に発売しております。デジタルカメラにつきましては、OEM(相手先ブランド)供給が急激に増え、売上金額を大幅に伸ばしました。

今後も、魅力ある新製品を積極的に市場に投入し、感動創造を引き続き図ってまいりたいと考えております。

中期計画の遂行状況

当社におきましては、21世紀に向け国際的な優良企業をめざし、またグループ全体の構造改革をねらいとした、中期計画を遂行しております。本中期計画の課題のなか、事業方向づけの明確化と赤字事業部門および赤字子会社の整理については今期でほぼ完了いたします。

株 主 の 皆 様 へ

また、最重要課題である連結ベースでのキャッシュフロー改善についても、当中間期において大幅に好転し、通期および平成13年3月期においてさらに向上する見通しです。ここで創出したキャッシュフローは、全事業分野にわたってデジタルイメージング事業分野への構造転換に投入していく所存であります。

これらの経営施策遂行により、内外でコニカグループ全体の存在感を示し、感動創造を発信し続ける企業グループとして、さらに尽力してまいり所存でございます。

今後の見通し

今後は、円高による輸出採算の悪化やグローバルな競争激化が予想されますが、現在進行中の中期計画を実行することにより、21世紀の国際優良企業をめざして経営革新を強力に推進してまいります。

株主の皆様には、今後ともご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



平成11年12月
代表取締役社長
植松 富司

中間貸借対照表

(平成11年9月30日現在)

(単位:百万円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
流動資産	208,133	流動負債	114,849
現金及び預金	22,176	支払手形	13,661
受取手形	32,392	買掛金	46,635
売掛金	61,089	短期借入金	13,590
有価証券	21,230	長期借入金(一年以上返済)	6,882
自己株式	1	未払法人税等	27
たな卸資産	52,756	未払費用	22,557
その他	18,962	製品保証等引当金	1,645
貸倒引当金	△ 476	事業再編・整理損失引当金	4,327
		その他	5,523
固定資産	194,217	固定負債	91,249
有形固定資産	82,343	社債	60,000
建物	28,482	長期借入金	8,928
機械及び装置	32,074	退職給与引当金	21,237
その他	21,786	その他	1,083
無形固定資産	2,508	負債の部合計	206,099
投資等	109,366	資本の部	
投資有価証券	16,813	資本金	37,519
その他	95,826	法定準備金	86,383
貸倒引当金	△ 3,273	資本準備金	79,342
		利益準備金	7,040
		剰余金	72,349
		任意積立金	65,393
		中間未処分利益	6,956
		(うち中間利益)	(3,344)
資産の部合計	402,351	資本の部合計	196,252
		負債・資本の部合計	402,351

中間損益計算書

(平成11年4月1日から平成11年9月30日まで)

(単位:百万円)

		摘 要	金額
経常損益の部	営業損益の部	営業収益	
		売上高	166,805
		営業費用	
		売上原価	106,105
		販売費及び一般管理費	53,180
		営業利益	7,519
	営業外損益の部	営業外収益	4,328
		受取利息及び配当金	869
		雑収入	3,459
		営業外費用	6,428
支払利息		1,317	
	雑支出	5,110	
	経常利益	5,419	
特別損益の部	特別利益	85	
	特別損失	595	
		税引前中間利益	4,910
		法人税、住民税及び事業税	27
		過年度法人税、住民税及び事業税戻入額	78
		法人税等調整額	1,616
		中間利益	3,344
		前期繰越利益	3,612
		中間未処分利益	6,956

6

- (注)1.有形固定資産の減価償却累計額 170,657百万円
 2.保証債務残高 62,243百万円
 (うち保証予約等) (44,014百万円)
 3.担保に供している資産 土地 1,214百万円
 建物 141百万円

連結決算

当社の連結対象子会社は64社、持分法適用会社は31社であります。当中間期における連結売上高は2,804億円、連結当期利益は42億円となりました。

売上高は前年同期に対し、円高の影響による減収が142億円ありましたが、情報機器部門の売上増が寄与し、全体では98億円の減収にとどまりました。

中期計画を推進した結果、コストダウンおよび販管費の圧縮等により、営業利益は186億円と大幅な増益となっております。また、円高による為替決済差益の減少などがありましたが、経常利益は99億円、当期利益は42億円となり、ともに前年同期を大きく上回っております。

事業別セグメントでは、感光材料関連事業部門はPS版の営業移管および円高の影響などで、売上高は1,591億円と前年同期に対し67億円(4.0%)の減収となりましたが、営業利益は88億円と大幅な増益となっております。コストダウンや販管費の圧縮に加え、特に米国およびアジアの子会社の利益改善が進んでおります。情報機器関連事業部門では、売上高は1,223億円と前年同期に対し32億円(2.6%)の減収となりましたが、円高の影響79億円を除くと特に欧米を中心に実質増収となっております。営業利益につきましても、141億円と前年同期に対し20%強の増益になりました。(注1)

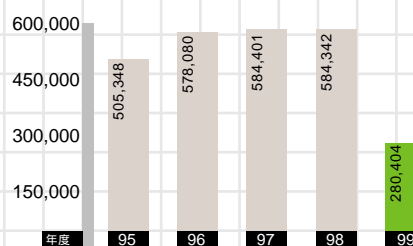
総資産は5,844億円と前期末にくらべ47億円減少しました。また、中期計画の推進により、連結キャッシュフロー

は264億円のプラスとなりました。特に、棚卸資産は55億円の減少となり、有利子負債につきましても125億円の減となっております(注2)。中期計画の目標値を達成しております。連結株主資本比率は27.6%と、前期末より0.7ポイント好転いたしました。

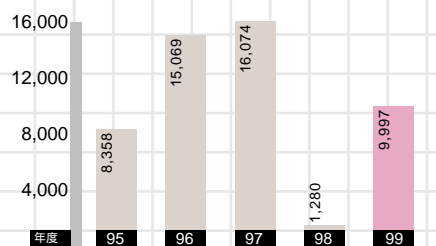
(注1) 事業別セグメントには上記2事業部門以外に、消去・全社費用として、売上高△11億円、営業利益△43億円が計上されております。

(注2) 有利子負債には少数株主持分に含まれるものを加えております。

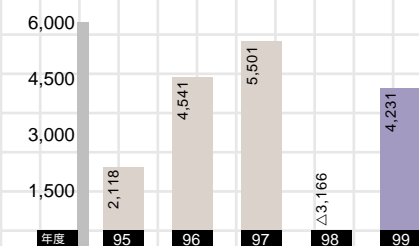
売上高 (単位: 百万円)



経常利益 (単位: 百万円)



当期利益 (単位: 百万円)



95～98年度は年間、99年度は中間期の数字です。

中間連結貸借対照表

(平成11年9月30日現在)

(単位：百万円)

資産の部		負債の部	
流動資産	349,591	流動負債	286,073
現金及び預金	52,096	支払手形及び買掛金	88,998
受取手形及び売掛金	139,841	短期借入金	113,966
有価証券	21,582	その他	83,108
たな卸資産	114,277	固定負債	137,144
繰延税金資産	10,390	負債の部合計	423,217
その他	11,402	少数株主持分	41
固定資産	227,596	資本の部	
有形固定資産	157,556	資本金	37,519
投資その他の資産	70,039	資本準備金	79,342
為替換算調整	7,257	連結剰余金	44,324
		自己株式	△ 1
		資本の部合計	161,185
資産の部合計	584,444	負債・少数株主持分及び資本の部合計	584,444

中間連結損益計算書

(平成11年4月1日から平成11年9月30日まで)

(単位：百万円)

摘要		金額	
経常損益の部	営業収益		
	売上高	280,404	
	営業費用		
	売上原価	159,941	
	販売費及び一般管理費	101,797	
	営業利益	18,665	
	営業外損益の部	営業外収益	3,133
		受取利息及び配当金	998
		その他の営業外収益	2,134
		営業外費用	11,800
支払利息		5,491	
	その他の営業外費用	6,309	
	経常利益	9,997	
特別損益の部	特別利益	325	
	特別損失	969	
税金等調整前純利益		9,353	
法人税、住民税及び事業税		2,702	
法人税等調整額		2,414	
少数株主損失		4	
当期純利益		4,231	

Konica Topics

新世紀に向けての環境方針

当社は、地球環境の保全を最も重要な経営理念の一つと位置づけ、環境課題の解決に取り組んでいます。今年度は、2001年以降を見据えた第3次計画の柱として、「地球温暖化防止」と「ゼロエミッション*1」の検討を開始いたしました。「地球温暖化防止」についてはコニカグループの全事業領域、全ライフサイクルにおいて、国の目標である2010年度までに二酸化炭素排出量を1990年度比6%削減すべく、主要製品のLCA*2解析に基づく目標値と施策を構築する予定です。「ゼロエミッション」については、循環型社会への対応を念頭に、グループワイドな取り組みとして2003年度までにゴミゼロをめざします。

*1 製造工程から排出される廃棄物を資源として再利用する完全循環型の生産システム。

*2 製品の製造から廃棄・リサイクルまでに至るすべての段階でどのような環境負荷があるかを定量的に評価する手法。

「コニカ Revio Z3」がグッドデザイン賞に選定

「コニカRevio Z3」は、3倍ズームクラス*1で世界最小サイズ*2を実現した気品あふれるメタリックボディのAPS対応コンパクトカメラです。その超小型で携帯性に優れた「独創的なデザイン」と新しい作法・マナーを提案した「自分撮りモード」が高く評価され、(財)日本産業デザイン振興会により平成11年度グッドデザイン商品に選定されました。

*1 21mm-58mm(2.8倍)を3倍ズームと称しています。

*2 発売時



1999コニカカップシンガポール国際バドミントン選手権を協賛

当社はアジアで大変人気のあるバドミントンの国際大会を長年冠スポンサーとして協賛し、アジア地域でのコニカブランドのイメージアップに努めています。第11回目にあたる今年の大会は、8月23日から29日の7日間にわたりシンガポールで開催され、世界19カ国の男女約250名の強豪が参加し、白熱した試合を繰り広げました。



'99日本女子プロゴルフ選手権大会コニカ杯に特別協賛

コニカは一昨年CI導入10周年記念イベントとして開始した「'99日本女子プロゴルフ選手権大会コニカ杯（主催：社団法人日本女子プロゴルフ協会）」に今年も特別協賛しました。9月9日から12日まで滋賀県琵琶湖カントリー倶楽部で開催された当大会では、2日目から首位にたった城戸富貴プロが通算7アンダーで国内メジャー大会で初優勝を飾りました。

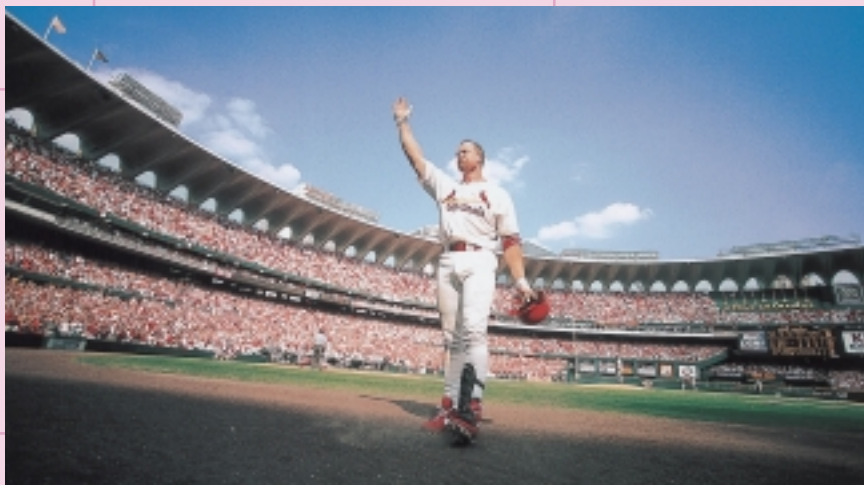


マグワイア「夢に挑戦！」プレゼントに158万通の応募

コニカは米国メジャーリーグ、セントルイス・カーディナルスのマーク・マグワイア選手のCM起用と合わせ、今春から「マグワイア『夢に挑戦！』プレゼント」キャンペーンを実施し、全国の皆様から多数のご応募をいただきました。マグワイア選手が昨年達成した前人未踏のホームラン世界記録の「70号」を記念して、70種類の豪華賞

品を取り揃えた本キャンペーンの最終応募数は、158万通を超え、これまでにない反響をいただきました。

昨年末、コニカはマグワイア選手とCM契約を結び、新世代フィルム「コニカカラーセンチュリア」とコニカのデジタルコピー&プリンタの新ブランド「Sitios(シティオス)」の広告に起用。65本の本塁打を記録し、今シーズンも本塁打王となったマグワイア選手とのCM契約は、コニカの知名度アップに大きく貢献しました。



New Products Topics

コニカHEXAR RF - 写真機の本質を知る人へ



11

コニカが画像表現へのこだわりを込めて1992年に発売した高性能・高画質カメラ「コニカHEXAR(ヘキサー)」は、その優れた描写力と操作性から、これまで多くのお客様の支持をいただいております。この間、「レンズ交換のできるヘキサー」をご希望される声を数多くいただき、これにお応えすべく、コニカカメラの新たなフラッグシップ機として、より高い次元の画像表現と操作性を実現した「コニカHEXAR RF」の12月発売を予定いたしております。ここ数年、クラシックカメ

ラが静かなブームとなってきました。これは、ほとんどの機能が自動化され、誰でも失敗がなく一様に写真が撮れる現代のカメラに物足りなさを感じ、自ら撮影条件を設定し「写真にもっと自分の意思を反映させたい」と望まれている方が増え

ていることのあらわれかもしれません。

コニカでは、今回の「HEXAR RF」の開発にあたり撮影者の意思を反映できるようマニュアル操作をふんだんに取り入れました。その上で、緻密な自動露出(AE)や静音設計のワインダーなど、必要にして十分なオート機能を搭載し、作画に集中できるよう高い快適性を実現しました。

撮影者のイメージを忠実に捉えるレンズには、シャープで味わい深い描写が得られる新開発の高画質な交換式

レンズ群(M-HEXANONレンズ)を3種類ラインアップしました。常に安定したフォーカシングが得られるレンジファインダーは、クリアで見やすく創作意欲をそそります。また、中央重点測光のAE、最高秒間約2.5コマの連続撮影、最高1/4000秒の高速シャッターなど、狙った一瞬を逃さない優れた機能が満載されています。

カメラボディには堅牢なアルミダイキャストを採用し、ボディを包む外装には耐衝撃性、耐腐食性などに優れたチタン材を使用しました。半光沢ブラックの塗装・焼き付け乾燥を施したチタンカバーは、耐摩性を高めるとともに、使い込むほどに深い味わいを醸し出します。

コニカは「HEXAR RF」により、「撮る楽しみ」と同時に「持つ悦び」をご提供してまいります。

メーカー希望小売価格(税別)
本体 168,000円

M-HEXANON 28mm/F2.8

M-HEXANON 28mm/F2.8は、コニカ伝統の描写性能へのこだわりが息づく広角レンズ。

完璧なまでの収差補正により、結像性能を極限まで追求。そのシャープな描写と優れた分解能が特長です。

メーカー希望小売価格(税別) 113,000円

M-HEXANON 50mm/F2

M-HEXANON 50mm/F2は、シリーズラインアップのなかで最も明るいF2を達成した標準レンズ。常に色滲みのないクリアな仕上がりとヌケの良い描写が最大の特長です。

メーカー希望小売価格(税別) 72,000円



M-HEXANON
28mm/F2.8
(レンズフード付)

M-HEXANON 90mm/F2.8

M-HEXANON 90mm/F2.8は、焦点距離90mmでありながらも、驚異的な小型化・軽量化に成功。高いコントラストと優れた色再現性が特長です。

メーカー希望小売価格(税別) 75,000円



M-HEXANON
90mm/F2.8
(レンズフード内蔵)



M-HEXANON
50mm/F2
(レンズフード内蔵)

専用フラッシュHX-18W

専用フラッシュHX-18Wは、小型ながらガイドナンバー18(ISO100・m / フル発光時)の光量を確保。照射範囲の広い配光特性を備え、ワイドアタッチメントなどを使わずに28mmの広い画角まで対応します。

メーカー希望小売価格(税別) 16,000円



専用フラッシュ
HX-18W

役員

代表取締役会長	米山 高範
代表取締役社長	植松 富司
専務取締役	岩居 文雄
常務取締役	岡島進一郎
常務取締役	松沢 勝
常務取締役	小宮 衛
常務取締役	小板橋 洸夫
常務取締役	鮫島 弘吉郎
常務取締役	鈴木 繁
取締役相談役	井手 恵生
取締役	森藤 幸男
取締役	伊藤 國雄
取締役	新谷 恭將
取締役	神戸 勝
取締役	芳西 哲
取締役	石河 正則
取締役	日比野 繁雄
常任監査役	久保田 英夫
監査役	松本 政之
監査役	永井 徹
監査役	神崎 安太郎

株式の状況

会社が発行する株式の総数 800,000,000株
 発行済株式の総数 357,655,368株
 株主数(平成11年9月30日現在) 36,181名
 (大株主(平成11年9月30日現在))

株主名	所有株式数	持株比率
住友信託銀行株式会社	19,620千株	5.5%
株式会社東京三菱銀行	17,657	4.9
株式会社三和銀行	17,657	4.9
朝日生命保険相互会社	16,574	4.6
千代田生命保険相互会社	15,909	4.4
東洋信託銀行株式会社	14,554	4.1
三菱信託銀行株式会社	12,125	3.4
日本生命保険相互会社	9,748	2.7
コニカ従業員持株会	9,586	2.7
安田信託銀行株式会社	8,233	2.3

(注)上記の所有株式数のうち信託業務に係る株式数は、住友信託銀行(株)18,142千株、東洋信託銀行(株)4,815千株、三菱信託銀行(株)6,938千株、安田信託銀行(株)8,043千株であります。

会社概況・株主メモ

創業 1873年(明治6年)
資本金 37,519百万円(平成11年9月30日現在)
従業員数 4,499人(平成11年9月30日現在)

本社 〒163-0512 東京都新宿区西新宿1-26-2
関西支社 〒542-0086 大阪市中央区西心斎橋1-5-5
札幌支店 〒060-0003 札幌市中央区北三条西1-1-1
東北支店 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡5-12-55
名古屋支店 〒460-0008 名古屋市中区栄2-3-1
中国支店 〒730-0037 広島市中区中町8-6
四国支店 〒760-0025 高松市古新町2-3
九州支店 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1-4-4

決算期 毎年3月31日
公告掲載新聞 日本経済新聞
名義書換代理人 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-4-3
東洋信託銀行株式会社
同事務取扱所 〒137-8081 東京都江東区東砂7-10-11
東洋信託銀行株式会社証券代行部
TEL(03)5683-5111
同取次所 東洋信託銀行株式会社全国各支店
野村證券株式会社全国本支店

ご優待のご案内

当社では、平成10年12月より国内における1,000株以上の個人株主の皆様に、下記のご優待を実施しております。

1. 当社製カレンダーの贈呈

当社の中間決算期(毎年9月30日)時点の国内における1,000株以上の個人株主の皆様が対象となります。



2. 「コニカ生涯学習セミナー」へのご招待(東京地区での開催)

朝日カルチャーセンターが開催する上記セミナーに、毎回30名様を無料でご招待させていただいております。セミナーの内容については、朝日カルチャーセンター(TEL 03-3344-1949)にお問い合わせ下さい。

お申し込みは、官製葉書にご希望セミナーの回数・開催日、株主様の住所、氏名、電話番号、株主番号をお書きいただき、下記住所宛に開催日の10日前迄にご送付下さい。

(宛先) 〒163-0512 東京都新宿区西新宿1-26-2
新宿野村ビル
コニカ株式会社 総務部総務課

3. 「コニカフォトクラブ」への割引入会

写真をご趣味とされておられるお客様を対象にしたクラブです。株主様は、入会金、年会費が割引となります。詳しくは、コニカラザ「コニカフォトクラブ」係(TEL03-3225-5001)にお問い合わせ下さい。

人の心を癒す音、嫌でも耳に入ってくる騒音、そして静寂という音の世界。音を想像させる写真を撮るポイントのひとつとして、シャッター速度の選択があります。カメラのシャッターダイヤルをフル活用して、音の表現に挑戦してみてください。



- 1、白鳥の見事な着水です。ここは白鳥の餌付けに成功して、今では白鳥をはじめ冬鳥の休息地となり、観光客にも人気があります。高速シャッターは人間の目では捉えられない瞬間の画像を残してくれます。
(長野県豊科町犀川 1 / 1000秒 F4)

- 2、この滝の力強さを表現するにはシャッター速度の選び方が決め手になります。長い露光をかけ過ぎると、落ちる水は白い帯状となり、弱い表現になってしまいます。水が線として見えるところがポイントです。
(払沢の滝 東京都檜原村 1 / 2秒 F11 PLフィルター使用)



- 3、都会の騒音が入り乱れるビルの片隅。コンクリートにこだまして聞こえる靴音は、音としての画像をいろいろと試みることができます。写真を見る人に音を感じてもらうのも、画像表現の楽しみのひとつです。
(東京都新宿 1 / 4秒 F16)



コニカ株式会社

〒163-0512 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル
総務部 TEL.03-3349-5241 広報室 TEL.03-3349-5251
(1999年12月発行) <http://www.konica.co.jp>

この小冊子は再生紙に大豆インキで印刷しました。

